

「8月10日空襲下の熊本と空襲慰霊碑」

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 高谷 和生

1 はじめに

令和元年熊本での第23回戦争遺跡保存全国シンポジウム熊本大会席上で、工藤洋三氏から第2回熊本空襲に関わる一連写真の情報をいただいた。これらの写真の中には、会場となる桜町周辺の熊本市公会堂本館や海軍司令部が使用していた洋館の空撮状況とともに、熊本市街地の中央部から北西・南東部にかけての当時のランドマークとなる河川や建物・施設が映されていた。その後、本写真所有者である今吉孝夫氏（さいたま市）に連絡し、熊本市関係資料の概要を次のように把握（註1）した。

1945年11月の米軍による南九州上陸攻撃に先行する米軍空襲について、埼玉県さいたま市在住の今吉孝夫氏は、米国在住William J. Swain氏との合同調査で南・中九州空襲の調査を取りまとめられた。この調査は、今吉氏が45年8月11日に旧制加治木中学校で級友16人が亡くなった加治木空襲体験が契機となったものである。戦後商社員となった今吉氏は米国駐在時から、部隊報告書や米軍側証言の収集を進め、当時父親が第5航空団第3爆撃機軍団の乗員であったウィリアム・ジェームズ・スウェイン氏と知り合い、米公文書館所蔵の第3爆撃機軍団写真約1,000枚の提供を受けた。この写真は部隊編成時のマリアナ諸島からフィリピンへ、沖縄で敗戦をむかえるまでの写真で、特に中・南九州各地に関わる串木野・宮崎・熊本空襲に関する空襲資料であった。その中から第2回熊本大空襲（昭和20年8月10日）に関わる新発見の写真18枚が今回発見（註2）されものである。



写真1 第1回熊本大空襲後の熊本市街地の様子 1945年7月3日撮影 工藤洋三氏作成

2 第二回熊本大空襲の概要

(1) 米極東軍の概要

米軍が沖縄に上陸して以降、日本軍の組織的抵抗が終わる前から米軍側は旧日本軍基地を整備し、

所属部隊			機種	基地
第5爆撃機集団	第43爆撃機群団	第63戦隊	重 B-24	伊江島
		第64戦隊		
		第65戦隊		
		第403戦隊		
	第38爆撃機群団	第71戦隊	中 B-25	沖縄
		第405戦隊		
		第822戦隊		
		第823戦隊		
	第345爆撃機群団	第498戦隊	中 B-25	伊江島
		第499戦隊		
		第500戦隊		
		第501戦隊		
第5戦闘機集団	第3爆撃機群団	第8戦隊	軽 A-26 A-20	沖縄
		第13戦隊		
		第89戦隊		
		第90戦隊		
	第8戦闘機群団	第35戦隊	P-38	伊江島
		第36戦隊		
		第80戦隊		
	第35戦闘機群団	第39戦隊	P-51	沖縄
		第40戦隊		
		第41戦隊		
	第58戦闘機群団	第69戦隊	P-47	沖縄
		第310戦隊		
		第311戦隊		
		第340戦隊		
夜間戦闘機	第348戦闘機群団	第341戦隊	P-51	伊江島
		第342戦隊		
		第342戦隊		
		第460戦隊		
	第418夜間戦闘機戦隊		P-61	嘉手納
写真偵察	第421夜間戦闘機戦隊		P-61	伊江島
	第6偵察群団		F-5, F-7	沖縄
偵察	第71偵察群団		B-25	伊江島

所属部隊			機種	基地
司令官部	司令部			沖縄
	第548夜間戦闘機戦隊		P-61	伊江島
	第11爆撃機群団	第26戦隊	重 B-24	読谷
		第42戦隊	重 B-24	読谷
		第98戦隊	重 B-24	読谷
		第431戦隊	重 B-24	読谷
	第41爆撃機群団	第47戦隊	中 B-25	嘉手納
		第48戦隊	中 B-25	嘉手納
		第396戦隊	中 B-25	嘉手納
		第820戦隊	中 B-25	嘉手納
第7爆撃機集団	第319爆撃機群団	第437戦隊	軽 A-26	牧港
		第438戦隊	軽 A-26	牧港
		第439戦隊	軽 A-26	牧港
		第440戦隊	軽 A-26	牧港
	第494爆撃機群団	第864戦隊	重 B-24	読谷
		第865戦隊	重 B-24	読谷
		第866戦隊	重 B-24	読谷
		第867戦隊	重 B-24	読谷
	第55爆撃機群団	(気象)	B-24	読谷
第7戦闘機航空団	第318戦闘機群団	第19戦闘機戦隊	P-47	伊江島
		第73戦闘機戦隊	P-47	伊江島
		第333戦闘機戦隊	P-47	伊江島
		第1戦闘機戦隊	P-47	伊江島
	第413戦闘機群団	第21戦闘機戦隊	P-47	伊江島
		第34戦闘機戦隊	P-47	伊江島
		第463戦闘機戦隊	P-47	伊江島
		第464戦闘機戦隊	P-47	伊江島
	第507戦闘機群団	第465戦闘機戦隊	P-47	伊江島

表1 第7航空軍の編成 表2 第5航空軍の編成 1945年8月1日段階 工藤洋三氏作成

6月には本格的に米陸軍極東航空軍が移駐を開始した。本軍は第5・7航空軍から成り、所有する爆撃機のタイプ別に8個軍団構成していた。1945年8月1日段階での第5・7航空軍の編成は工藤洋三氏作成の表1・2・3（註3）の通りである。

（2）航空団・郡団・戦隊の概要

熊本市街地への第二回目となる空襲は、8月10日9時56分に始まり、11時40分までの2時間余りの空襲だった。

第2回熊本空襲では第7航空団が先行し、第5航空団が続いた。攻撃当初の比較的高い位置からの投弾では「M47 A 2 焼夷弾（種別の記号5）」や「M69からなるE 46集束焼夷弾（種別の記号15）」を投下した。さらに焼夷弾の着地空白域を目標に、後半には後詰めとなる軽爆撃機（A-20・A-26）や戦闘爆撃機（P-38・P-47）が「ナパーム弾攻撃」を行ったものと考えられる。後半に投下された爆弾は「増設燃料タンク使用のナパーム弾」及び「落下傘付きM76焼夷弾」である。

航空団	群団	戦隊	攻撃時刻	目標	機種	機数	高度 m	爆弾 種類 トン数	焼夷弾（広義） 種類 トン数	破砕爆弾 種類 トン数	総 トン数	備考 ¹⁵ 【（）内の最初の区切りは Record Group. 次が Entry No. 最後が box No.
7	319	437	9:56	工場地域	A26	8	100		5	5	5	10:05 (018/NM6 7A/3611)
		438		都市地域	A26	8	100			7	8	09:56-10:10 (018/NM6 7A/3612)
		439		工場地域	A26	7	100		5	4	4	
		440		都市地域	A26	8	100		5	3	3	
7	494*	864	10:09	都市地域	B24	6	11000		15	14	14	10:09 (018/NM6 7A/3168)
7	11	26	10:10	都市地域	B24	5	11000		15	12	12	10:12
		26		都市地域	B24	5	10500		15	12	12	
		98		都市地域	B24	11	11500		15	26	26	10:11-10:12 (018/NM6 7A/3547)
		431		各種目標	B24	5	11000		15	12	12	なし
7	41	47	10:25	各種目標	B25	12	300		5	5	5	
		48		都市地域	B25	11	300		5	5	5	10:30 (018/NM6 7A/3529)
		396		工場地域	B25	12	300		5	5	5	
		820		工場地域	B25	12	200		5	5	5	
7	507		10:30	各種目標	P47	45	100		24	57	57	10:30 (018/NM6 7A/3471)
7	413	1	11:00	都市地域	P47	20	300		24	15	15	
		21		各種目標	P47	23	200		24	16	16	
		34		工場地域	P47		200		24	16	16	
7	318	19	11:30	都市地域	P47	17	100		24	17	17	11:40 (018/NM6 7A/3677)
		73		都市地域	P47		100		24	20	20	
		333		鉄道駅	P47	12	100		24	12	12	
7		420	不明	都市地域	B24	11	11500		15	26	26	
5	43	403	11:08-11:10	各種目標	B24	2	12500		21	4	4	
5	3	8	10:55-11:20	各種目標	A20	13	100		5	3	3	
		8		各種目標	A20		100		6	8	8	
		8		各種目標	A20		100		24	4	4	
		13		都市地域	A26	4	100		5	3	3	
		13		都市地域	A20	9	100		6	9	9	
		89		各種目標	A20	13	100		5	2	2	
		89		各種目標	A20		100		6	9	9	
		89		各種目標	A20		100		24	4	4	
		90		各種目標	A26	3	100		5	2	2	
		90		各種目標	A20	9	100		6	9	9	
		90		各種目標	A26		100		24	3	3	
5	8	35	11:15-11:40	都市地域	P38	16	200		24	8	8	11:15-11:25 (018/NM6 7A/5464)
		36		各種目標	P38	14	1000		24	7	7	11:30-11:40 (018/NM6 7A/5478)
		80		都市地域	P38	15	300		24	8	8	11:18-11:40 (018/NM6 7A/3705)

* 第494群団の864、866、867の3戦隊は、臨機の目標として宮崎を攻撃した。

表3 1945年8月10日熊本空襲の攻撃概要 工藤洋三氏作成

3 45年8月10日の熊本空襲

（1）熊本市東区画図町「下無田集落空襲」と「M76落下傘付き焼夷弾」

熊本市東区画図町は、阿蘇からの伏流水が湧水となり水面を創りだした下画図湖の後背微高地に形成された所島・重富・田井島・萱無田等の集落が点在する農村である。

本地区は太平洋戦争期に3回の空襲を受けている。1回目は1945年7月1日深夜のB29による熊本市街地二割に被害が生じた第1回熊本大空襲である。市中心部から約8km離れた所島（萱無田）集落の9軒で住宅・納屋の全焼・半焼被害が生じた。第2回は沖縄の極東航空軍による同年8月1日空襲で、所島集落5軒で住宅・納屋の全半焼・馬小屋被害、3名の死者となった。

特に3回目となる沖縄極東航空軍第5・7航空団による「8月10日空襲」が最も被害が大きい。上江津集落3軒、下江津集落3軒、下無田上集落2軒が全焼し、下江津では1名機銃掃射による志望もある。ここ下無田下集落では計16軒の家屋が全焼した。集落周辺の水田には、爆弾・焼夷弾が無数に投下され、「その修復には数年を要した」と空襲被害の実態について記されている。

8月10日昼前の空襲で、本不発弾が確認された隣接地の岩本幸男氏宅では「自宅ワラ屋根に引っかかった小型の焼夷弾を叩き落とし、井戸横で消火」した事、宮田正氏宅では「屋根が燃えだしたので、梯子をかけ水をかけた」事等の証言がなされた事から、空襲は一波のみで、この家屋群においては小型焼夷弾投下と想定できた。さらに、野田亘氏宅では、「家の屋根に落下傘付き爆弾が引っかかり不発となり、軍が回収した」との証言も得られ、本不発弾（落下傘付き焼夷爆弾攻撃）との共通項が伺えた。いずれの証言からも、爆撃機等の侵入方向は当地からは南東部に位置する益城町「飯田山」方面から北西部の熊本市街地「南熊本方向（本山町・春竹町・本庄町）」に向けての侵入であった。

ここで発見された不発弾は、識別線及びマーキングで米軍製500ポンド「落下傘付きM76大型焼夷弾」であった。米軍500ポンドTNT爆弾は、その弾道特性の良さから同弾体を利用し各種の通常爆弾のほかガス弾・焼夷弾が作成させた。外観上で一見して見分けるために、焼夷弾には弾体の先端信管部際側には桃色細線、中央部から後部には赤色太線、尾部くびれ側には桃色中細線の識別線が描かれた。

また、通常は弾頭部にあるべき瞬発信管は取り付けられておらず弾栓で塞がれ、弾底部に「AN-M101A 2 信管」が装着されていた。また、発見時に不発弾周辺からは、布製のパラシュート片・紐とリベット打ちジュラルミン製品が確認された。1個体分の製品は、全体色が灰色で、側面の表には「PARACHUTE UNIT」「FOR23 LB. M72」「FRAG. BOMB」「※不明瞭文字 BOMB」「LOT RSH-5」と五行文字が黒字で記されていた。これにより本製品が23ポンド破壊爆弾用「M72パラシュートユニット」であることが判明（註4）した。

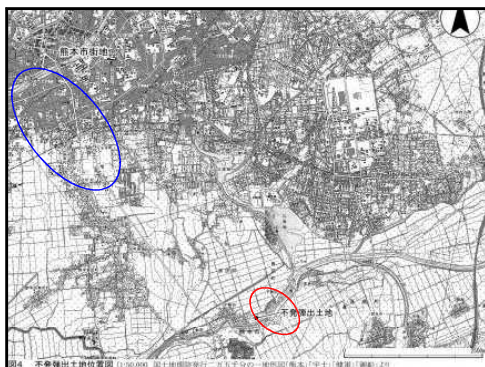


図1 不発弾出土位置図
下無田集落への投弾状況

図2 昭和20年8月10日空襲による
高谷作成・山本達也三氏作図

写真2 M76落下傘付き焼夷弾の不発弾

（2）菊池郡水源村木護墜落の「P61夜間偵察機」と「20mm機関砲弾」

米軍による空襲は昼夜問わず行われ、8月10日も夜間、威力偵察・攻撃が行われたが、夜間の攻撃途中に菊池に「第5航空軍第418夜間戦闘機戦隊のP61」が墜落した。墜落場所は、菊池郡水原村大字原字木護の国有林内、通称「花鳥山」南斜面で、墜落機はP61（機体番号42-39588）、操縦士のRaymond A. Cozza少尉、副操縦士のRobert E. Odell中尉が亡くなった。1947年6月4日、二人の遺体は墜落現場横の2基の墓から回収され、コッツ少尉はハワイ州ホノルルの国立墓地「パンチボール」に埋葬され、オデール中尉はニューヨーク州に埋葬されている。

なお、現地では地元の方より機関砲弾薬莢が採集されている。全長109mm、底部径95mm、雷管の打撃痕跡なし、底部の着色は確認できない。底部刻印 ①1944：「1944年」製造年、②20MM：20mm機関砲の弾丸標記、③M21A 1：20mm弾丸の薬莢種別で黄銅製品を示す、④NE S C O：この弾丸を製造した製造所略号でボルチモア「The National Enameling and Stamping Company」製造品であることが確認（註5）された。



写真3 墜落地点「花鳥山」

写真4・5 回収された20mm機関砲弾薬莢

写真6 P61夜間戦闘機

(3) 玉名町永徳寺墜落の「P47戦闘爆撃機」

同日の午前11時、熊本県玉名郡玉名町（現・玉名市）大字永徳寺の田んぼに、第507戦闘機群465中隊所属の戦闘爆撃機P47（機体番号44-88196）が墜落する。熊本へのナパーム弾攻撃後に大浜（玉名）飛行場への作戦中に菊池川鉄道橋梁に配備された陸軍高射砲第百三十二聯隊の一中隊と陸軍高射機関砲第二十一大隊の一小隊の応戦により撃墜された。死亡搭乗員は、Earl G. Graham Jr. 少尉で、現場付近に遺体を仮埋葬後、敗戦後には永徳寺集落共同墓地内に再葬された。1947年7月3日、米軍第108墓地登録部隊墓地部隊第1分遣隊により遺体は回収（註6）された。



写真6 第7航空軍第318戦闘機群団第73戦隊のP47D戦闘爆撃機翼下に165ガロン増設燃料タンクへのナパーム増粘したガソリン注入の様子 工藤洋三氏提供

(4) 熊本市街地での空襲写真特定

今回の確認された写真18枚からは、益城町飯田山山頂付近から画図町・御幸笛田町・田迎町に点在する各集落を越え、南熊本駅周辺、本荘・琴平本町から、花畑町を経て新町・島崎町に抜ける爆撃路（南東から北西方向）が想定される。撮影は後部乗員による、投弾の様子を写した手持ち撮影と想定できる。投下場所として図3に示す「桜町・新市街、熊本駅・機関庫・春日校、本山町岡村鉄工所、市立商工学校・一新校、二本木町、西部瓦斯、河原町電停・本荘方面」等を特定した。攻撃する航路は三条と想定される。



図3 熊本市街地主要部での空襲写真確認地点

- | | |
|---------------|---------------|
| ①桜町・市公会堂・新市街 | ②熊本駅・機関庫・旧春日校 |
| ③旧岡村鉄工所・本山2丁目 | ④北岡神社・国鉄・泰平橋 |
| ⑤二本木・西部瓦斯・東雲楼 | ⑥西部瓦斯・南熊本 |
| ⑦白川隣接軍需工場・二本木 | ⑧市立商工学校・一新校 |
| ⑨河原町電停・本荘周辺 | |

⑤・⑥・⑦は写真外

※本航空写真の元図は工藤洋三氏提供による

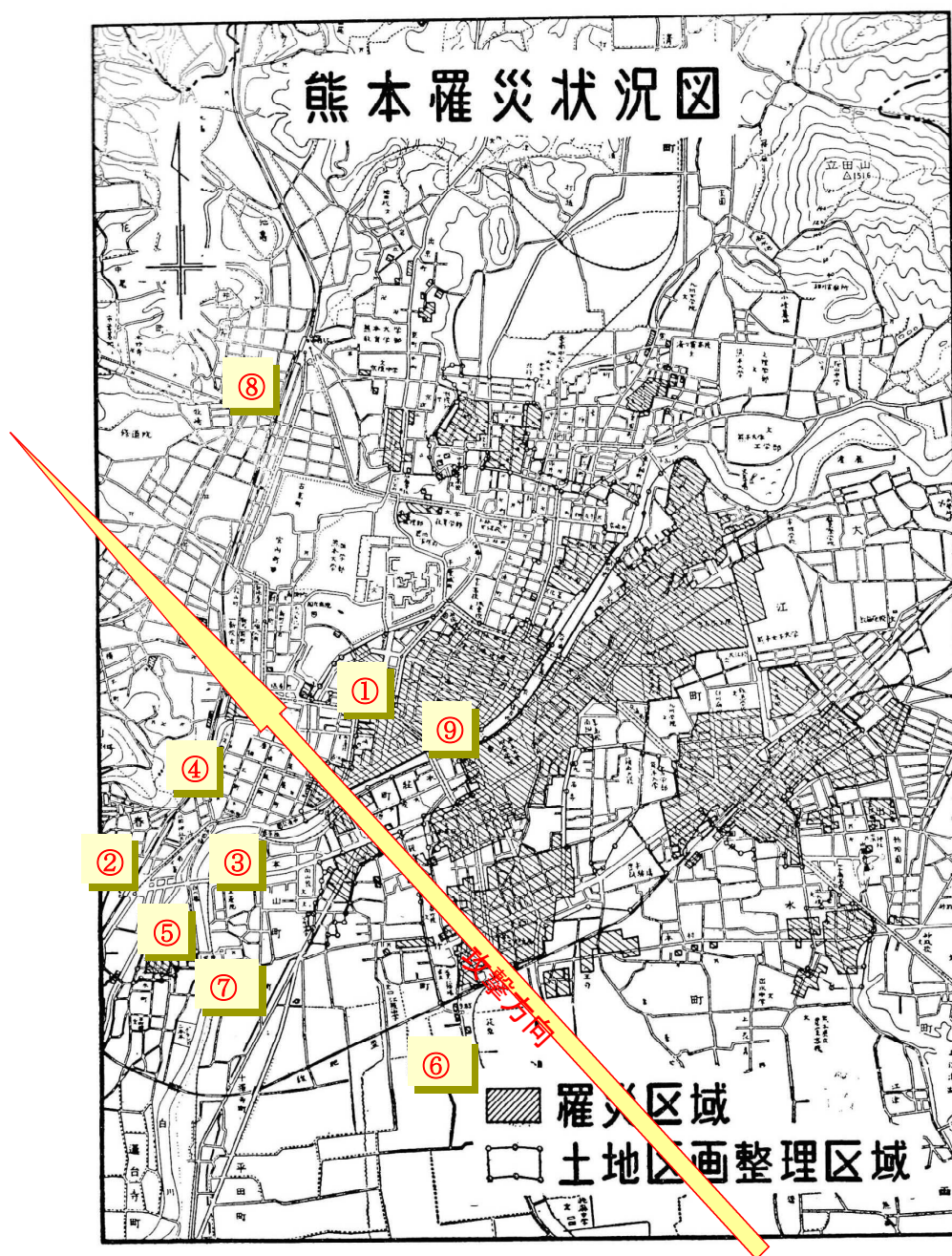


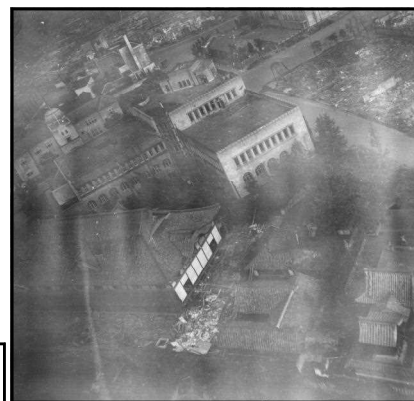
図4 熊本罹災状況図での空襲写真確認地点

① 熊本市中央区桜町・熊本市公会堂・新市街周辺

写真7左側は熊本市公会堂の本館・日本館（現熊本市民会館）、通り向かいには海軍人事部が使用した洋館（現国際交流会館）、奥には平成28年熊本地震で解体された通信省熊本貯金支局・旧熊本市役所花畑別館が見える。手前右下には現存する山崎菅原神社が確認できる

さらには7月1日第1回熊本大空襲で焼けた花畑町市街地が手前側とその先に広がる。空襲時、近接する熊本市役所付近での空襲後の建物片付け・建物疎開を行っていた当時熊本市立商工学校2年辻元氏（熊本市中央）は、防空壕への避難に際して戦闘機による周辺の機銃掃射があったことを証言されている。

写真-7 桜町・熊本市公会堂・新市街周辺



② 熊本駅・熊本機関庫・旧春日校周辺

花岡山・万日山より熊本駅・機関庫側を俯瞰している3枚の連続した写真である。写真8手前の木造建物は旧春日校（春日小学校）、中央部には熊本駅が位置し、現在は解体された煉瓦造の熊本機関

庫、停車する列車屋根にはゼブラ模様の対空迷彩が施されている。画面奥の本山・本荘町側にはナパーム弾の炸裂が見えることから、投弾後に駅裏の花岡山・万日山を避けるために機体を上昇させ山肌が写っている。

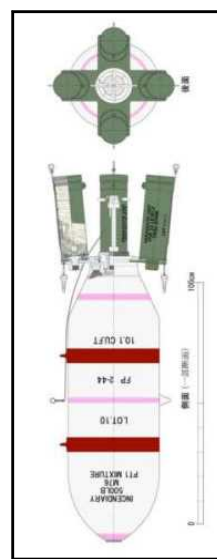
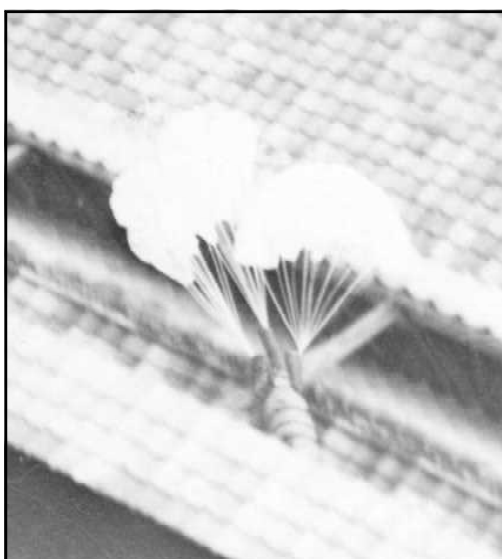


写真－８・９・１０ 熊本駅・機関庫から西側の花岡山・万日山へとぬける一連の写真

③ 旧岡村鉄工所・本山２丁目周辺

中央区本山２丁目の旧岡村鉄工所は戦時中製作機械の製造を行っていた軍需工場である。現在は廃業し、ここは熊本都市バス本山営業所・車庫となる。写真11は大型ゼブラ帯の対空迷彩を施した工場建屋二棟へのM76落下傘付き焼夷弾の攻撃の様子である。拡大した写真12には、右手前側の屋根に、落下傘が広がり建物の間に落下する様子が見える。工場前の道路は熊本駅から大江方面へ延びる軍用道路（現産業道路）であり、料亭建物と庭園が見える。また、工場横の白川堤防上には熊本市電の路線、通称川尻電車が走る。

なお図４カラー復元図は2018年熊本市画図町下無田神社横で発見された同不発弾の復元図で、作図提供は山本達也氏である。



写真－１１・１２ 旧岡村鉄工所へのM76落下傘付き焼夷弾落下の様子・拡大写真 図－４ M76落下傘付き焼夷弾復元図

④ 北岡神社・国鉄・白川・泰平橋周辺

写真13は、熊本駅北側に位置する北岡神社周辺部の写真である。国鉄沿線での連続する２基の特徴ある踏切を越えて神社鳥居と奥には社殿も見られる。さらに奥には白川が蛇行し、画面左には泰平橋も確認できる。遠望する本山１・２丁目付近の町屋が炎上する様子も見える。写真③本山２丁目の岡村鉄工所写真の連続と考えられる。

⑤ 二本木町・西部瓦斯・東雲楼・世安橋周辺

写真14は熊本駅南側の古町・二本木町周辺の様子である。駅前より南側に延びる通りには大阪屋ビル・旅館の建物、先の市電通りには大型ガスタンク２基を持つ西部瓦斯株式会社熊本支店建物があり、その左横には遊郭・東雲楼の富士山を模した庭園・築山が見える。さらに背面には蛇行する坪井川が流下し、白川にかかる世安橋も遠望できる



写真－13 北岡神社・国鉄鹿児島本線・白川・泰平橋周辺
写真－14 二本木 西部瓦斯・東雲

⑥ 西部瓦斯熊本工場 南熊本・萩原町周辺

写真15・16の本施設は、三菱熊本航空機製作所へパイプを敷設して燃料瓦斯を輸送するための西部瓦斯南熊本支社である。写真23には国鉄豊肥線南熊本駅の南側に位置する本工場内施設、ガスタンク2基、駅からの引き込み線の様子、市景観形成建造物・木村邸が見える。米軍側も早期に本施設を察知しており、5月13日艦載機空襲では、上空からのガンカメラ映像が確認されている。



写真－15・16 南熊本・萩原町周辺 西部瓦斯熊本工場・豊肥線

⑦ 白川左岸世安町の軍需工場、二本木周辺

この一連写真は、熊本市街地中心部を流れる白川左岸世安町の軍需工場（工場名は特定できていない）と二本木町周辺と想定される。写真17には工場建物・外堀に対空迷彩を施している真ん中にナパーム弾特有の煙硝が広がる様子が見える。写真18には対岸となる右岸側でのナパーム弾煙硝と市街地空襲町屋の様子が写真19に続く。図4 熊本罹災状況図（註7）での罹災地域とも合致する。



写真－17・18・19 白川左岸世安町の軍需工場 二本木町周辺、ナパーム弾の煙硝

⑧ 旧熊本市立商工学校・旧一新校・新町周辺

熊本市中央区島崎一丁目に所在した旧熊本市立商工学校は、市内の中小商店師弟のための実業学校として開校され、昭和20年には商業科は廃止され、工業専門の学校として教育課程が組まれていた。証言では、空襲時には市内各所への学徒徴用で校舎内は無人であり、空襲で焼け焦げた実習棟内の旋盤等機械の片付けを翌日生徒自らが行った。現在地は、市立西山中学校である。

一連写真のスタートの写真20には左奥には坪井川に架かる「洗馬橋」と国登録文化財「早野ビル」や福田病院が、写真21には延焼中の市立商工学校と正立寺本堂・正妙寺、3枚目写真22の奥には国鉄鹿児島本線と旧一新校（現一新小学校）が、右奥には正立寺本堂の破風屋根と境内墓地が見える。



写真－20・21・22 国鉄鹿児島本線・正立寺・洗馬橋 炎上する旧熊本市立商工学校と旧一新校・鹿児島本線

⑨ 河原町電停・迎町・本荘周辺

写真23と24は連続したもので、写真23奥側町屋にはナパーム弾の炸裂から玉城醤油工場の特徴ある高層煙突に繋がる。写真24手前側には湾曲する市電路線と停車した市電2両が確認できる。白川左岸坪井川右岸と想定できる川岸に町屋が建ち並び、高架煙突奥の琴平町・本庄町方面には、焼夷弾が連続して破裂している。



写真－23・24 河原町電停・迎町・本荘町

4 熊本県内の空襲慰霊碑

ここでは熊本県内に所在する「空襲慰霊碑」の概要（註8）をとりまとめる。

（1）「熊本平和祈念之碑」

- 所在地 熊本市中央区水道町9-17 大甲橋際（白川）に位置
- 設置主体・建立年・管理 ライオンズクラブ国際協会設置 1980年4月27日建立 熊本ライオンズクラブ管理
- 概要・記銘内容 熊本市内での第1回熊本大空襲（昭和20年7月1日）、第2回熊本大空襲（同年8月10日）での被災地区・被災主要建物・被災家屋数・死傷者数等の被災状況を示し、慰霊をのための平和祈念碑である。

（2）旧制御船中学校「勤労学徒 殉難碑」

- 所在地 熊本県上益城郡御船町木倉1253 県立御船高校敷地内に所在
- 設置主体・建立年・管理 旧制御船中学校同窓会設置 1965年10月25日建立 県立御船高校管理
- 概要・記銘内容 昭和19年4月以降の旧制御船中学校生徒500名が長崎県大村市第二十一海軍航空廠への学徒動員に際して、10月25日空襲での死者10名、翌年2月11日の福岡県九州飛行機製作所で病死した1名を加えての慰霊碑である。

（3）旧制人吉中学校「勤労学徒の碑」

- 所在 人吉市北泉田町350 県立人吉高校敷地内に位置
- 設置主体・建立年・管理 旧制人吉中学校第一八回・一九回生一同設置 1989年10月20日建立 県立人吉高校管理
- 概要・記銘内容 旧制人吉中学校3年生の第二十一海軍航空廠並びに九州飛行機製作所で勤労動員による病疫者数人の慰霊碑

（4）旧熊本工業学校「殉難の碑」

- 所在 熊本市中央区上京塚5-1 県立熊本工場高校敷地内に位置
- 設置主体・建立年・管理 熊本県立工業高校設置 1967年6月建立 熊本工業高校管理

○概要・記銘内容 昭和20年5月14日の米艦載機空襲により防空壕に被弾し生徒5名が死亡、他にも学徒動員中の長崎被爆者1名他の計7名の戦争殉難者のための慰霊碑である。

(5) 旧陸軍傷痍軍人療養所再春荘「留魂碑」

○所在 合志市須屋2659 熊本再春医療センター敷地内に位置
○設置主体・建立年・管理 遺族会設置 1951年7月13日建立 熊本再春医療センター管理
○概要・記銘内容 昭和20年5月13日米艦載機空襲により、傷痍軍人療養所再春荘本部棟横に避難した荘長・営繕手・看護婦4名計6名の死亡者のための慰霊碑である。

(6) 旧菊池陸軍飛行場「慰霊碑」

○所在 菊池市泗水町吉富175-58 富原保育園隣接
○設置主体・建立年・管理 富の原中央区で設置 昭和34年4月建立 富の原中央区管理
○概要・記銘内容 昭和20年5月13・14日の米艦載機による空襲で死亡した69名、戦後の地域での開拓時に発見された十数体の無縁仏も慰霊対象としている。部隊碑も同敷地に安置される。

(7) 旧人吉海軍飛行場「高ん原慰霊の碑」

○所在 球磨郡錦町木上1-3 県道横に位置
○設置主体・建立年・管理 地域有志が設置 昭和年月建立 管理不明
○概要・記銘内容 昭和20年3月18日の米艦載機による攻撃で死亡した人吉海軍航空基地9名、地元住民2名、国民学校児童2名の計13名の慰霊碑である。

(8) 旧玉名陸軍飛行場「忠霊塔」

○所在 玉名市大浜町11 松原河川緑地内に位置
○設置主体・建立年・管理 元在郷軍人会が忠霊塔として設置 昭和29年10月建立 大浜地区管理
○概要・記銘内容 地区の戦没者名と併せて昭和20年5月10・13日の玉名飛行場空襲での民間人13名の芳名を記した忠霊塔である。

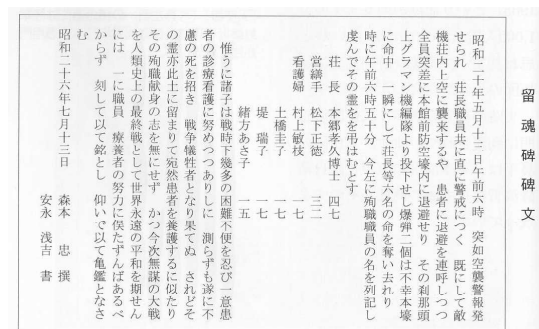


図-5 再春荘「留魂碑」碑文読み下し文 写真-18・19 再春荘留魂碑 熊本空襲慰霊碑

5 まとめ

戦後75年となる2020年、工藤洋三氏からの情報提供、今吉孝夫さんからは実物資料を提供いただき、第2回熊本大空襲に関する新たな写真が公開でき、熊本空襲の実相に迫ることができました。7月初旬の公開以降、多方面から大きな反響がありました。その後、数名の方々と市街地写真内のランドマークとなる当時施設の特定作業を進めながら、さらに新たな空襲証言等も得ることができ、本報告を纏めることができました。まさに本交流会での成果が結びついた事例ではないでしょうか。これからも米軍資料調査と新証言を探り、残された戦争遺跡にそれらを重ね、戦争実相の解明を進めていきます。

【 註 釈 】

- 註1 本報告での概要は今吉孝夫氏への電話での問い合わせ及び毎日新聞社の令和2年8月15日記事「友奪った日の事実 戦後75年鹿児島・加治木空襲」による。
- 註2 今吉氏からの提供資料18枚は、データと紙資料であり、合わせて該当場所の垂直撮影写真も添付されていた。ただ写真資料内には「米軍側撮影データ文字」記録等は一切なされていなかった。
- 註3 工藤洋三「極東航空軍による九州の都市へのナパーム弾攻撃」『第6回空襲・戦災・戦争遺跡を考える九州・山口地区交流会宮崎集會報告集』空襲・戦災・戦争遺跡を考える九州・山口地区交流会実行委員会 2020年
- 註4 工藤洋三・鈴木裕和・高谷和生「熊本市画図町で見つかったM76の不発弾」『第4回空襲・戦災・戦争遺跡を考える九州・山口地区交流会出水集會報告集』空襲・戦災・戦争遺跡を考える九州・山口地区交流会実行委員会 2018年
- 註5 高谷和生 啓発リーフレット『空襲下の熊本』くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 2020年
- 註6 高谷和生「高瀬川鉄道橋梁の防空と墜落米軍機」『第1回空襲・戦災・戦争遺跡を考える九州・山口地区交流会柳川集會報告集』空襲・戦災・戦争遺跡を考える九州・山口地区交流会実行委員会 2014年
- 註7 熊本市「熊本罹災状況図」『熊本市戦災復興誌』熊本市都市局 1945年
- 註8 高谷和生「第6章 慰霊碑」『戦後75年 平和を祈って くまもとの戦争遺跡』熊日出版 2020年